

整形外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究にかんする倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。また、当研究に情報を利用することをご理解いただけない場合につきましても、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。

〔研究課題名〕 麻酔リスクの高い患者における下腿・足部の慢性骨髄炎に対する遊離皮弁を用いた患肢温存治療

〔研究機関〕 帯広厚生病院整形外科

〔研究責任者〕 本宮真（帯広厚生病院リハビリテーション科部長、整形外科）

〔研究の目的〕 下腿・足部の慢性骨髄炎・糖尿病性壊疽は治療に難渋することが多く、感染の根治を目的とした大腿・下腿切断術が必要になることがあります。高齢者や基礎疾患を有した患者様において、切断後に義肢を使用して歩行機能を獲得できることは少なく、多くの患者様が車いす生活となってしまいます。当院では、外科的手術・抗菌薬治療・軟部組織再建を組み合わせ、腫の温存・自力歩行機能の温存を目指した治療を行っています。また、重篤な心・腎・呼吸障害を有する患者様においては、全身麻酔のリスクを回避するため、麻酔科の先生と連携しながらより安全な麻酔での軟部組織再建を行っています。本研究では、麻酔リスクの高い患者様の下腿・足部の慢性骨髄炎・糖尿病性壊疽の治療を行った患者様の調査を行い、下腿・足部感染の治療成績をより良くすることを目指しています。

〔研究の方法〕

●対象となる患者さん：2020年1月から2023年12月までに当院整形外科で治療した下腿慢性骨髄炎・糖尿病性壊疽の内、基礎疾患を有し麻酔高リスク（アメリカ麻酔科学会ASA-PS分類のクラス3または4）の状態での遊離皮弁による軟部組織再建を行った患者様。

●利用するカルテ情報

- ①年齢、性別、病歴情報
- ②手術や皮弁の情報
- ③皮弁の成績と合併症
- ④最終的な歩行機能

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌等で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

〔問い合わせ先〕

北海道帯広市西14条南10丁目1番地

JA北海道厚生連 帯広厚生病院

整形外科 担当医師 本宮真

電話 0155-65-0101